（別記）

**2019年度岩内町農業再生協議会水田フル活用ビジョン**

**１　地域の作物作付の現状、地域が抱える課題**

　岩内町の農業は、水稲と酪農を中心とした農業形態であり、全水田面積に占める主食用米作付面積の割合が約５０％、飼料作物作付面積割合が約３０％となっており、岩内町の酪農家が必要とする酪農業における自給飼料は不足傾向にある。

　担い手については農業の高齢化・後継者不足等により減少傾向にあり、不作付地の増加や生産効率の低下が懸念されているが、今後は担い手（認定農業者）への農地集積などによる作付面積の維持・拡大や作業効率を高めるなど、低コスト化を図ることが求められ、さらに地産地消（産地化）等を視野に入れ、適地適作により他の作物への転換や飼料用米の多収性品種の推進を図ることで、農業所得の安定化を図りつつ、後継者の育成を図ることが課題となっている。

**２　作物ごとの取組方針等**

　町内の約160ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作による生産性の向上、それに伴う低コスト化を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

（１）主食用米

　　　主食用米の生産にあたっては、産地ごとの価格・販売動向等を踏まえた米の販売可能数量と連動した米生産数量・作付面積を考慮し、消費者・実需者のニーズに即した高品質で良食味な「売れる米作り」を推進する。

　　　なお、担い手への土地利用の集積を進め、いずれは生産組織を育成し、機械施設の効率的利用等により、生産性の向上と良質・良食味米の生産のため、地域適応品種を積極的に導入し、地力施工等による生産環境の充実を推進する。

（２）非主食用米

　　ア　飼料用米

　　　　主食用米の需要減少が続く中、水稲作付面積の維持及び収入の安定化を図るため、飼料用米を重要転作作物に位置付け、転作を推進する。

　　　　また、飼料用米の拡大推進にあたっては、北海道での多収性適応品種が確立され、種子の量産が可能になり次第、多収性品種の推進を図る。

　　イ　加工用米

　　　　需要減少が続く主食用米の実需に即した生産を図るにあたり、産地交付金を活用

　　　することで、飼料用米に次ぐ重要転作作物に位置付け、積極的かつ安定的な生産の　　　　　　推進を図る。

（３）馬鈴薯、南瓜

　　　馬鈴薯、南瓜については、岩内町の土壌でも生産可能な作物でもあり、高収益作物　　としての定着や安定的な収量の確保を図るため、作付面積の拡大を推進する。

（４）麦（小麦）

　　　現行の水田において、排水不良な場合は心土破砕（サブソイラ）等による湿害（排水対策に取り組むことにより、生産面積の拡大及び収益力向上を図る。

（５）てん菜

　　　てん菜については、湿害（排水）対策（心土破砕等）を実施することにより、作付　　　　面積の拡大及び安定的な収量の確保を図る。

（６）飼料作物

　　　町内の酪農家が必要とする自給飼料の不足が課題となっており、土壌診断に基づく

施肥管理の実施、追播・追肥の取り組みを進め、作付面積の拡大及び生産性の向上　　を図る。

（７）不作付地の解消

平成30年度現在の不作付地（約4ha）について、平成33年を目標に約2割を主食　用米・飼料用米・加工用米の作付けにより解消を図る。

（８）耕畜連携

町内の酪農家が必要とする自給飼料の不足が課題となっており、農業者と畜産家　との利用供給協定書に基づいた耕畜連携を実施することで、堆肥を活用した土壌環境の改善をしつつ、収益力の向上を図る。

**３　作物ごとの作付予定面積**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 作物 | 前年度の作付面積  （ha） | 当年度の作付予定面積  （ha） | 2020年度の作付目標面積  （ha） |
| 主食用米 | 78.5 | 78.0 | 78.0 |
| 飼料用米 | 6.5 | 6.5 | 10.0 |
| 米粉用米 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 新市場開拓用米 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| WCS用稲 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 加工用米 | 7.09 | 7.19 | 7.24 |
| 備蓄米 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 馬鈴薯 | 0.20 | 0.25 | 0.35 |
| 南瓜 | 7.30 | 7.35 | 7.45 |
| 麦（小麦） | 3.35 | 3.50 | 3.60 |
| てん菜 | 0.00 | 0.20 | 0.30 |
| 飼料作物 | 39.09 | 40.00 | 40.50 |
| そば | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 野菜 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

**４　課題解決に向けた取組及び目標**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 整理番号 | 対象作物 | 使途名 | 目標 |  | |
| 前年度（実績） | 目標値 |
| １ | 馬鈴薯（生食、加工）、南瓜 | 高収益作物助成 | 作付面積 | （2018年度）7.50ha | （2020年度）7.80ha |
| ２ | 麦（小麦） | 戦略作物助成 | 作付面積  10a当たりの収量 | （2018年度）3.35ha  (2018年度)60kg/10a | （2020年度）3.60ha  (2020年度)86kg/10a |
| ３ | てん菜 | 地域振興作物助成 | 作付面積  10a当たりの収量 | （2018年度）0.0ha  (2018年度) -kg/10a | （2020年度）0.30ha  (2020年度)2,700kg/10a |
| ４ | 加工用米 | 加工用米作付助成 | 作付面積  単収 | （2018年度）7.09ha  （2018年度）468kg/10a | （2020年度）7.24ha  （2020年度）520kg/10a |
| ５ | 地域水田フル活用ビジョンによる助成対象作物 | 農地集積助成 | 農地集積面積  作付面積 | （2018年度）6.06ha  （2018年度）6.06ha | （2020年度）6.30ha  （2020年度）6.30ha |
| ６ | 飼料作物 | 飼料作物農地集積助成 | 農地集積面積  作付面積 | （2018年度）15.97ha  （2018年度）39.09ha | （2020年度）16.20ha  （2020年度）40.50ha |
| ７ | 飼料作物 | 耕畜連携助成 | 実施面積  作付面積 | （2018年度）8.57ha  （2018年度）39.09ha | （2020年度）9.50ha  （2020年度）40.50ha |
| ８ | 飼料作物（牧草） | 地域振興作物助成 | 作付面積  10a当たりの収量 | （2018年度）39.09ha  （2018年度）480kg/10a | （2020年度）40.50ha  (2020年度)550kg/10a |

※　必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さ

い。

※　目標期間は３年以内としてください。

**５　産地交付金の活用方法の明細**

　　別紙のとおり